

光市医師会報

No.403

(平成 21 年 新年号)



光市医師会

<http://www.yamaguchi.med.or.jp/users/hikarishi/isikaihp/hikari.htm>

目 次

・年頭所感	松村 壽太郎	1
・とんど焼き	河郷 忍	2
・へんてこりん (I)	河内山 清	4
・泌尿器科における病診連携	井本 勝彦	6
・光市医師会 AED 講習会	平岡 博	7
・第9回～13回学術講演会報告	平岡 博	10
・光市医師会特別講演会		15
・忘年会		16
・理事会新年会		17
・新年互礼会		18
・その他報告		20
・編集後記		21

(敬称略)

年頭所感



光市医師会長 松村 壽太郎

平成 21 年の新しい年を迎え、会員の先生方には、心を新たにして、新年度の抱負に想いを寄せられておられることと存じます。

昨年 4 月より、医師会長に選任され 10 ヶ月が過ぎようとしています。この間、会員の先生方には、病院、診療所を問わず会員同士の顔の見える交流と、より密なる連携をお願いし、医師会活動にご支援・ご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

昨年は、医療保険制度だけでなく、保健・福祉まで巻き込んだ大きな変革がありました。外来管理加算算定問題に始まり、後期高齢者医療制度、保険者に義務付けられた特定健診の新規導入は、制度の複雑さに加え、国民への周知の不十分により、受診率の低下と、それに連鎖するようにがん検診受診率も低下をみました。対応された先生方も大変だったと思います。

一方、光の地域医療を考えますと、基幹病院である光総合病院、大和総合病院の市立病院の常勤医師が減少しつつあります。急性期病院の常勤医師不足はますます深刻化していき、これからの市立病院の再編問題にも大きく影響すると想像されます。光市の医療体

制・連携を維持するうえにも診療科の閉鎖は避けたいものです。病院と診療所との連携を柱に、これからは行政や市民と共に協力していく活動が必要と考えます。救急医療体制の維持・充実、診療所医師の外来診療、在宅医療の維持・推進にもつながり、ひいては、急性期医療と慢性期医療のスムーズな連携にもつながっていくと考えております。

光市では今春から、「市立病院のあり方検討会」が再開される予定で、市立病院の再編問題等具体的に進展すると思われれます。医師会としても、積極的に対応していく考えでいます。

本年は、その他診療に直接関連する問題として、レセプトオンライン化への対応、「総合診療医」問題、医師会組織の「新公益法人」への対応の検討準備等、課題が山積しております。理事役員一丸となってより良い医師会運営に取り組んでいくつもりです。

また、本年 10 月 12 日（月）体育の日に、光市医師会が引受で「県医師会ゴルフ大会」を周南 CC で開催いたします。多くの先生方のご参加をお願いいたします。

大改革の時代の到来を思わせ、いささかの不安と焦燥の時代にあたっては、会員先生方一同のご協力と団結により、新しい時代に対処することが必要です。本年もどうぞよろしく願いいたします。

終わりに、本年が、先生方にとって実り多い一年でありますよう、心よりお祈り申し上げ、平成 21 年の挨拶いたします。

とんど焼き

玖珂郡医師会 河郷 忍

県医師会主催、新年御礼会で、平岡先生から原稿依頼を受けました。何を書いていいかわからず、中途半端な返事をしたまま、帰宅しました。

翌日、近くでとんど焼きがあり、写真でも撮ろうと思いでかけました。

数日前に、花粉症が始まって受診したおじさんがいました。

「とんど焼きの準備で、山に竹を切りにでかけたら、鼻水が出始めた。たぶん花粉症だろうと思う。とんど焼きを11日にするから先生も遊びにきんさい。酒も魚も振舞っているよ。」お誘いの言葉をいただきました。我が家とスタッフの家のしめ縄を集めて、毎年、とんど焼きにもっていらいます。今年は場所と時間を聞いて、当日出掛けました。

田んぼの真ん中に木を組んで、門松の竹を周囲において、みんなの持ち寄ったしめ縄など山積みしてあります。

風がつめたいなか、皆さんは田んぼに集まってきました。

神主さんがお払いをされて、代表者が神をあげて、二礼二拝。

いよいよ、火入れをしたら、炎が燃え上がり、拍手喝采。

祖生平畑地区営農組合の人たちが運営しているそうです。

門松の注文をうけて、門松を製作して資金を稼いでいるそうです。

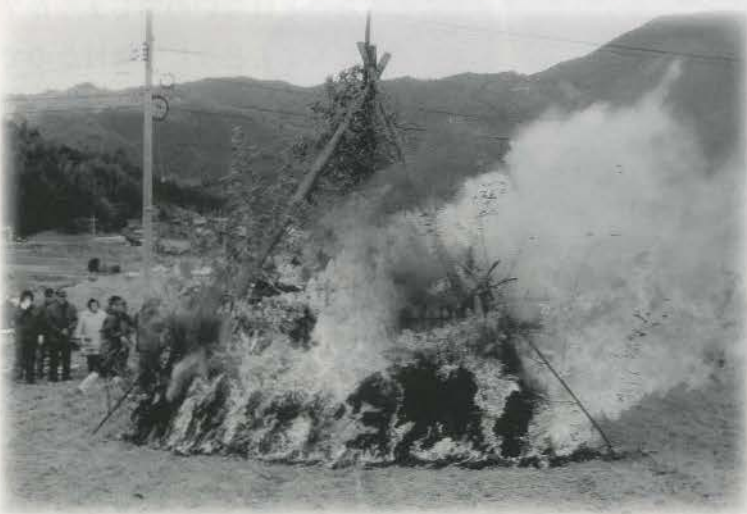
花粉症のおじさんを見つけて、話を聞きました。

「こうやって、集まって酒を飲むのがたのしみだ。打ち上げは温泉へ行く。捕まえた猪も捌いて、焼いてみんなで食べている。」

顔見知りの人が多く、新年の挨拶をする。

「今年もよろしくだけど、先生とあまりよろしくはしたくないね〜」

豚汁（ではなく猪汁）、焼き鳥、おにぎり、焼肉（猪）、ぜんざいとお腹がいっぱいになりました。寒かったけど、心とお腹は温かでした。



へんてこりん (I)



河内山 清

何やら桃源郷に居るかのような、地獄1丁目あたりをうろついているような気持ちでウツラウツラしているところへ、いきなり大きなとなり声。じいちゃん、おじい、おい、おじい、なにしてんやモー、モー何時ともてんやモー、モーはよ起きんかいモー、みんなまってんやでモー。いつも少し元気すぎて一言多い、五歳になりかけの孫の声。…優しく、おくゆかしい日本語の躰け教育の担当者は、おじいちゃんだった筈なのですが。

そうだ今日はお正月だったんだ。モーモーの丑年のお正月だったんだ。どうりでのんびり朝寝坊なんかしてたんだ。私はハッとして、びっくりしてとび起きました。…かくして私の、のんびり、間のびした丑年生活は始まったのです。然しハッとしたり、びっくりしたりする牛なんていますかねえ。

一年ってけっこう長いですよ。朝寝坊、上顎下顎をゆっくり回して食べる朝飯昼飯夕ご飯、そして反芻、牛歩戦術、のろま動作、無関心。牛って俺

に似てんのかな、それとも俺が牛に似てんのかな。

然し牛ってよく働くもんな。丑年なら私も今年は何かしなけりゃいけないのだろうか。困ったことになったなこれは。今年一年間何すっかな。NPO法人「何もしない会」ってのが何処かにあれば早速入会手続きをとりたいたいのですが。

最近、産科方面のことが色々話題になっていますね。出産予定日、何月何日何時何分、というのが寸分の違いもなく的中し、異常分娩の場合もこれ又、何月何日何時何十分に、こういう異常が起きて、こういう手術が必要となり、血圧がなんぼとなんぼとなり脳出血のおそれあり…なんてことが正確に予測出来れば、予め、手回ししておけますから、妊婦さんの盤回しなんてことも無くなるのではないのでしょうか。妊婦さんの遺伝子をピンセットでつついてみたら、予定日関係の正確情報が出てくるてなことはないのでしょうか？…やっぱり。でもどうして駄目なのですか？ダメなものはダメッ！。おやっ、どこかで聞いたことのある声だな。ハイわかりました。でも科学者に向かっていきなり文学的な表現で、ぱっさりやられても困るのですが。

出産予定の朝、お母さんにタミフルを服用して戴きます。それから産科医へ。お腹の中の赤ちゃんはもう手足も活発に動く一人前です。而も赤ちゃん

ですから当然のことながら若年層です。タミフルが効いてきますと、お腹の中で暴れだします。発作的に外へ飛び出ようとしてますが出口は一つしかありません。ゴム手袋をしたお医者さんが待っているところへ赤ちゃんは飛び出てきます。うまくキャッチしないと、取り落としたりするようなことがあると又、刑事事件になったりしますからご用心…。いかがでしょう。ダメなものはダメッ…おやっ、オタカさん、まだいらしたんですが、また悪いこと聞かれました。冗談、失言ですよ、内緒内緒。

高齢者の場合、西暦2千何年、ン月、ン日というように各人の、死亡予定日はあるのでしょうか。

その人の日頃の行い、かかりつけ医の腕前、神様のきまぐれ等によって決

まるのでしょうか、一番強い権力をもって仕切っているのが神様です。神様はそのときのご機嫌、ご気分次第、勝手気ままにやられるのですから困ったものです。でも触らぬ神にたたりなし。あいつ生意気なやつだから150歳まで死刑を延ばしてやろうなんてことになっては大変ですから。天国に召される日を今やおそしと待っている老いぼれ子羊達も居るのですから。仏様だってそうです。結跏趺坐と称して居眠りばかりして居られるので、こちらの願いごとは届きません。お迎えは何時になるのやら。さっぱり当てにはなりません。私がまだ目障りに生きているのも、そういう訳ありなのでご容赦ください。



泌尿器科における病診連携



光市立光総合病院 井本 勝彦

光総合病院泌尿器科の井本勝彦です。いつも地域の先生方には大変お世話になっております。さて今回は病診（病病）連携について泌尿器科的に述べたいと思います。日本泌尿器科学会の会員は約8000名で、泌尿器科だけを専門としている現役医師は約5000名です。国民2万人に1名くらいで医師の中でも約3%にすぎません（光市の人口55000人当たり泌尿器科医2～3名ですが当院は腎不全、透析も担当するため泌尿器科医は不足しています）。昨今医師不足が叫ばれるなか山口大学泌尿器科学教室もここ数年入局者がなく今後現状維持することがやっとです（山口県の人口146万人、泌尿器科医師約80人）。これから高齢化社会となり泌尿器科疾患の増加が予想され泌尿器科医師数が変わらない現状でどうするか？地域住民に泌尿器科疾患を啓蒙しかつ地域の先生方に泌尿器科疾患に関心を持って積極的に診ていただき地域住民の健康を守って行くことだと思います。泌尿器科疾患が疑われた時には当科にご紹介いただき精査加療後に先

生方の元へ逆紹介するシステム作りを考えています。わたしは今年で医師20年目を迎え平成13年4月に大和総合病院に赴任以来この地域での勤務も9年目になります。今後とも地域の先生方と十分に話し合い連携の絆をより強くしていきたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



光市医師会・AED講習会 —インストラクターとしての印象記—

光市医師会 平岡 博

去る11月22日(土)、第5回光市医師会AED講習会に、インストラクターとして、初めて参加させていただいた。竹中先生(光市立総合病院麻酔科)をリーダーとして、松村会長、丸岩先生(救急医療担当理事)、多田先生、私と光市立光総合病院の指導看護師森本さん、準備担当の医師会中尾さん、総勢7名のスタッフとなった。



竹中先生によるオリエンテーション

参加者は、医療関係者(看護師さん、ヘルパーさん)が多かったが、一般からも14才(中2)から70才までのやる気満々の方々をお招きして行われた。

参加者12名を4組に分け、4体の蘇生訓練用の人形を相手に訓練が行われた。

1. 意識の確認、誰かに連絡する方法、気道の確保による呼吸の有無の確認、2. 胸骨圧迫法、3. 口対口呼吸法、4. AED使用法、5. 実際の場面を想定した応用編が主な内容である。

参加者はAHA(アメリカ心臓学会)作成のDVDを見ながらの実地訓練を繰り返し行うことになる。胸骨圧迫は1分間に100回とかなりのハイペースであり、寒い日であったが皆汗を流しておられた。30回圧迫すると、次は2回の人工呼吸である。

口対口呼吸法は自らが習う際にそうであったように、なかなか胸が持ち上がらない。「はい、もっと顎を持ち上げて、口をがぼっと開けて恥ずかしがらない



鼻をつまんで顎を引き上げは一つ

で思い切り！」最後には何とか全員持ち上がるようになった。

人形の口は、個別の逆流防止弁付きのビニールカバーで覆うのだが、1回ごとに酒精綿できれいに拭き取らなくてはならない。この作業がなかなか大変だということもインストラクターを経験して初めてわかった。



病院のスタッフも参加

いよいよ AED である。ふたを開けると大きな女性の声で指示が出される。

「パッドを袋から取りだして下さい。胸を大きく開いて図の用にパッドを貼って下さい…離れて下さい。ボタンをしっかりと押して電気ショックを与えて下さい。」一回も医療行為を行ったことのない一般人が、電気ショックを与える訳だから緊張しないわけがない。指がふるえている方もおられた。



離れてくださいーい

午後2時から5時まで3時間みっちり訓練を終えた数名の方から感想を語っていただいた。現役時代は、会社の衛生安全委員会の一員として活躍された70才の男性は「とても良い経験になりました。これでまた少しはお役に立てるのでは。心電図の解析とは？ CPRとは？専門用語をわかりやすく説明して欲しい。」膝の痛みを押して参加された高校教師の40代男性は、「特に男子生徒に教えたい。女子は医療関係に進む子どもが多いが、男子はほとんどいないので。」中学2年生の少女は「倒れた人を助けてあげたい。」皆さん、思

い思いに答えてくださった。

最後は松村医師会長から、AED講習会参加証明書が手渡され、この講習会も終了となった。参加した皆さんの満足そうな笑顔に、とても励まされた講習会であった。1回に参加可能な人数が限られているので、継続していくことが大切だと実感した。ご参加いただきました方々、スタッフの皆様、大変お疲れさまでした。

最近のAHAの知見では、目の前で大人が倒れた場合は、胸骨圧迫とAEDのみでも有効とのことです。



講習会の参加証の授与



1, 2, 3 汗がでできます



DVDを見ながら実技講習



中学生も母親と一緒に参加



お疲れ様

第9回光市医師会定期学術講演会

関節リウマチにおける生物学的製剤に
おける治療のパラダイムシフト

産業医科大学第1内科学講座

助教授 斉藤 和義 先生

日 時 平成20年10月7日(火)

場 所 光市商工会館2F会議室

以前は、「慢性関節リウマチ」と呼ばれたが、現在は「関節リウマチ」と呼ばれるようになった。ここ数年のめざましい根本的な治療法の発達により、完全緩解も可能となったためである。新しいリウマチ治療法について、解りやすくご講演いただいた。

これまでのリウマチ治療は、DMARDSと呼ばれる複数の抗リウマチ薬を中心に、消炎鎮痛の為、対症療法として、COX-2、少量のステロイドを用いる治療が主流であった。DMARDSではMTX(メトトレキサート)が代表的な薬剤で、世界的に第1選択薬(アンカー・ドラッグ)とされるようになった。しかし、約半数の患者さんでは効果不十分である。

効果不十分の患者さんに対して、痛み
のレセプターに直接作用する、TNF- α
抗体インフリマキシブ(レミケード[®])
またTNF- α 可溶化受容体エタネルセ
プト(エンブレル[®])が登場して状況
は一変した。これら薬剤の投与により、
約3割が1年間の完全緩解を認めたとの
報告がある。またレントゲン上の骨

破壊が抑制され、改善されたとの報告もある。両者とも高価な薬剤であるが、労働への復帰など社会経済に対する効果は高い。抗IL-1、IL-6抗体拮抗薬、Bリンパ球Tリンパ球抗体など、新薬の開発も活発である。感染、悪性新生物など副作用にも考慮する必要があるが、それにもまして、その効果が期待される。



第10回光市医師会定期学術講演会

「上腹部症状の治療戦略」

医療法人淳和会長谷川記念病院

副院長 津村 弘人 先生

日時 平成20年10月28日(火)

場所 光市商工会館2F会議室



NSAIDsが引き起こす潰瘍対策に関して興味深い講演をいただいた。先生は島根医科大学第3内科御出身で、膠原病、脳卒中、血液疾患を専門とされている。この内科では、免疫抑制剤、抗がん剤、ステロイドなど消化管出血を引き起こす薬剤の投薬が多く、胃十二指腸潰瘍との戦いであったとのこと。現在の病院では、関節リウマチを主に担当されており、整形外科が主体の病院であり、NSAIDsの使用も多く、多数の潰瘍患者さんを診察されている。

60才以上の男女で、関節リウマチのためNSAIDsを内服されている人の実に15.5%が多発性潰瘍を合併した。H.ピロリで20倍、NSAIDsで20倍、両者合併すると60倍に潰瘍の危険性が上昇するとの報告がある。

以上のことより、50才以上で、潰瘍の既往歴、ステロイドの併用、NSAIDs、ビスフォスフォネート、DMARDSの使

用などが合併した場合は高頻度に潰瘍を発生するため、予防的にPPIの投与が有効と思われる。ミソプロストール(サイトテック®)は保険上認められた唯一のNSAIDsによる潰瘍予防薬であるが、残念ながら、腹満感、下痢などの副作用が多くあまり使用していない。H2ブロッカー、粘膜保護剤などによる潰瘍防止効果は認められなかった。

その他、FD(機能性胃腸障害)、GERD(胃食道逆流症)などに対しては症状に応じて胃薬の使い分けを行っている。



第10回講演会スライド

第11回光市医師会定期学術講演会

ARB 史上最大のエビデンス

～ ONTARGET プログラムの治験から～

広島大学大学院歯薬学総合研究科

心臓血管生理医学

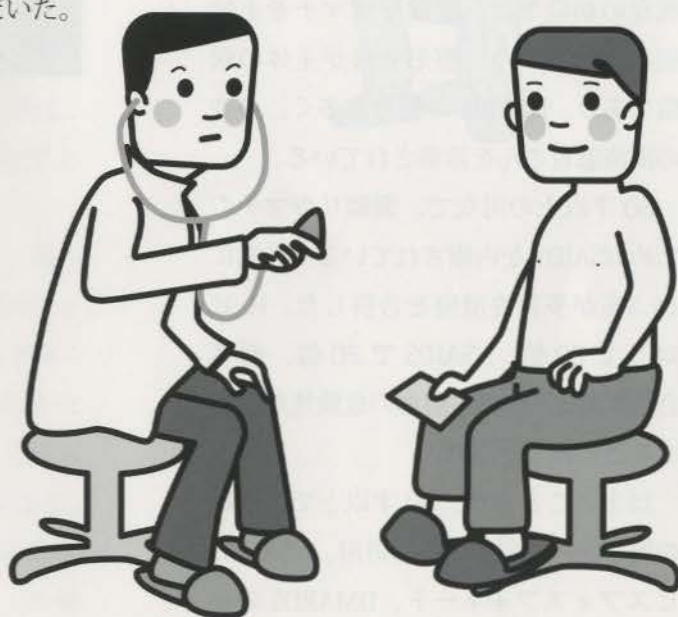
准教授 東 幸仁 先生

日時 平成20年11月4日(火)

場所 光市商工会館2F会議室

最近、ミカルディス® を用いた史上最大規模の大規模臨床試験 (ONTARGET プログラム) の結果が発表された。心血管イベント予防薬として、世界で最も経験のある ACE 阻害剤であるラミプリルとの比較試験である。ミカルディスはラミプリルと同等の心血管イベント抑制効果を有し、ラミプリルに比して高い認容性が認められた。また同等の心筋梗塞抑制効果を証明した。

何故このような結果が導かれたかについて、わかり易くご説明いただいた。



第12回光市医師会定期学術講演会

「日常診療に役立つ血尿の診断と治療」

山口大学大学院

医学系研究科泌尿器科学分野

教授 松山 豪泰 先生

日時 平成20年11月25日(火)

場所 光市商工会館2F会議室



新しく山口大学医学部泌尿器科教授となられた松山先生に、日頃、外来診療で多く見られる血尿の診断と治療について、実に詳しくしかもわかりやすくお話いただきました。

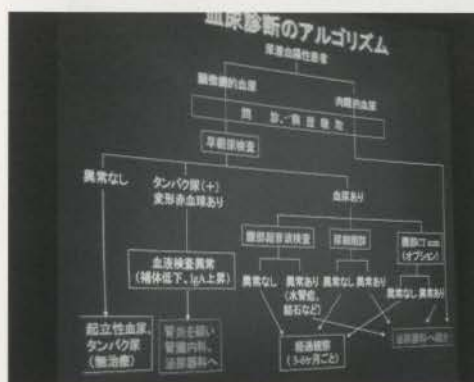
検尿は、早朝中間尿で、100mlは採尿された新鮮尿が望ましい。スポーツは血尿を誘発するので、学校検尿では前日のクラブ活動は休ませた方が正確な測定が可能である。生理時期は避ける。

血尿は顕微鏡的血尿と肉眼的血尿に分類される。遠心分離された検体を400倍の顕微鏡で観察し、1視野あたり4個以上を顕微鏡的血尿と診断する。

顕微鏡的血尿の原因としては、男性で感染、結石、BPH、悪性腫瘍、IgA腎症、女性では感染、結石、先天性疾患(嚢胞腎など)、悪性腫瘍、IgA腎症の順になる。顕微鏡血尿では、蛋白尿との

合併が重要である。両者が陽性の場合、尿蛋白100mg/dl以上の時90%、尿蛋白100以下でも50%に何らかの尿路系疾患があることが解っているからである。IgA腎症の早期発見により、治療の可能性が高まるので、学校検尿は大切である。

肉眼的血尿の原因は、男性で結石、悪性腫瘍、感染、BPH、IgA腎症、女性は感染、悪性腫瘍、結石、IgA腎症の順となる。両者ともに悪性腫瘍が上位となるため注意が必要である。Nutcracker現象は、腹部大動脈とSMAに挟まれた左腎静脈が圧迫され鬱血が起こり血尿となる。細胞疹、エコー、CT等で異常があれば、直ちに泌尿器科を紹介して欲しい。



第12回講演会スライド

第13回光市医師会定期学術講演会

「消化管運動機能異常について」

—特に運動性腸症候群 (IBS) の最近の話題—

防府消化器病センター・防府胃腸病院

副院長 松崎 圭祐 先生

日時 平成20年12月2日(火)

場所 光市商工会館2F会議室



外科医として活躍されているが、消化管運動についても造詣の深い松崎先生に解りやすくお話いただいた。消化管機能異常として1) FD (functional dyspepsia)、2) IBS (irritable bowel syndrome)、3) DES (diffuse esophageal spasm) がある。

IBSとは、器質的な疾患を有せず腹痛・腹部不快感と便通異常を主訴としそれら症状が一定期間継続する(3か月以上)症候群と定義される。現在日本人で1200万人といわれるIBSであるが、病気との認識が低く、放置されたり、市販薬ですまされることが多い。病院を受診するのは7%のみである。下痢型、便秘型、混合型のおおの3分の1ずつと考えられる。消化管の知覚過敏性が原因と考えられている。5HT3 (ヒスタミンレセプター) が重要な役割を果たす。

IBSの診断には問診が重要で、第1回目の面接で詳しく生活習慣、排便習慣、

便の性状、血便の有無に関して聞く。注腸透視、CFなどで器質性の疾患を除外する。胃透視で、運動の過敏性、腸の収縮の病態をビジュアル化する事などで医師-患者の信頼関係を築くことが、重要である。精神的な症候群と言われ、専門医からも、かかりつけ医にも相手にされず、ドクターショッピングを繰り返す傾向が強い。心療内科でたくさんの投薬を受けている患者さんも多い。

IBSの治療は、規則正しい生活習慣の指導から始まる。次に食事指導、薬物療法、心理療法となる。下痢型、便秘型共に、第1段階としてコロネルなどが用いられるが、効果の発現には、2~3週間かかる。下痢型には5HT3レセプターの選択的阻害薬であるイリボーが有効である。効果の発現が早いため、下痢がひどいときのみ投与して、改善したら休薬といった方法が考えられる。さらに抗不安薬、抗うつ薬などが用いられることもある。ストレス解消の為に、ランニングなどの運動も有効な方法である。



第13回講演会スライド

光市医師会特別講演会

「特定健診・特定保健指導の
医師会モデル」

産業医科大学 公衆衛生学

教授 松田 晋哉 先生

日時 平成21年1月20日(火)

場所 光市商工会館 2F 大会議室



大企業に勤める人たちは、職域で定期健診が必ず行われ、特定健診、特定保健指導も十分に行われている。一方で、中小企業に勤める人たち、非正規労働者の人たち、またその家族に対しては、ほとんど施行されていない事実がある。

この事実に対して、アクセスポイントが十分に確保され、地域と密着し、訪問しやすい開業医の果たすべき役割は大きい。その点を重視した特定健診、特定保健指導の電子化プランを、松田先生を始めとする産業医大グループが作成し、全国に広める努力をなされている。

日常診療を行いながら、患者さんへの動機づけ指導、積極的指導を行われている「北九州医師会モデル」を具体的にお話しされた。「開業医の復活」をうたわれたこのモデルは、久しぶりに

我々を勇気づけるお話しであった。

会場から、その健診で開業医はペイできるのか？と厳しい質問も出された。全国の医師会が団結して取り組みれば十分にその点は解決できるとのご返事であった。開業医もデータを持たないとダメですとの話が印象的であった。



平成 20 年
光市医師会忘年会

日 時 平成 20 年 12 月 17 日 (木)
午後 6 時

場 所 ホテル松原屋

松村会長の挨拶の跡、藤村先生の乾杯の音頭で忘年会が始まった。光市立病院の先生も、院長の森田先生を始めとして、たくさん参加され本年最後の挨拶が交わされた。田村勝司先生が傘寿(80歳)になり、お祝いの品が会長より贈呈された。先生からは、これまでの道のりが支えられた感謝の意と、息子(健司先生)をよろしくお願ひしますとのお話があった。最後は一本締めで、閉会した。



松村会長の挨拶



田村先生の挨拶



藤村先生の乾杯



傘寿のお祝い



全体風景

光市医師会・理事会 新年互礼会

日時 平成21年1月13日(火)

午後7時

場所 小蜂

新春放談としたかったのですが、お酒の勢いで内容不明となってしまいました。写真だけのご挨拶となりますが、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。医師会全体の互礼会報告が充実しておりますのでそちらをご覧ください。



光市立病院問題は今年が正念場



特定保健指導はほとんどないよね



オンライン化は本当に
義務化になるのか？



産婦人科の救急医療は
緊急課題



本年もよろしくお願ひいたします

平成 21 年 光市医師会新年互礼会

日 時 平成 21 年 1 月 27 日 (火)

午後 7 時より

場 所 光市商工会館 2F 大会議室

光市医師会、光市立病院合わせて 23 名の参加があり、お弁当とビール、お酒も用意され、意見交換が和やかなうちにも活発に行われた。

はじめに松村会長の挨拶。「本年もよろしくお祈りします。第 1 に今年は、光市立病院のこれからの方針が決定される大事な年です。医師会と市立病院、光市関係者との協議会が行われた。この席で、これまで通り、市立病院を光市の地域医療を支える大切な支柱とすることが確認されました。第 2 に県医師会のゴルフ大会が光市医師会主催で 10 月 12 日 (体育の日) に開かれます。たくさんの参加をお願いします。第 3 に医師会と光市立病院の合同症例検討会が 3 月 3 日 (火) に大和病院で開かれます。こちらもたくさんのご参加お願い致します。」

次に参加者全員の挨拶を 1 行ずつお届けする。

「もうすぐ、新市長が市立病院のビジョンを示されると思う。」(守田)

「今年は IT 化を目指したい。」(広田)

「光で 5 年目になる。友達もできて、地域に少しでも貢献したい。」(藤田)

「光市は産科・小児科は充実しているが、産科救急は危機的状況」(道上)

「特定健診の請求も電算化し、自分で十分行っている。」(佃)

「4 月に開業してまだ手探り状態。」(井上)

「原爆を体験したが、上層部のみ事前に情報が流れていたのでは。」(藤村)

「開業 9 年目でまだ綱渡り状態。ゴルフ大会には参加したい。」(守友)

「100 床の病院で何とか 10 年。顔の見える連携がしたい。」(丸岩)

「光市で 9 年目になる。病診連携を推進したい。」(Mr. 井本)

「医師としてできる限り働きたい。働きやすい環境を。」(Mrs. 井本)

「インフルエンザと格闘中。休日診療所で大人を診療するのが不安。」(松島)

「開業して 1 年目。今年は患者さんに合わせる。」(竹中)

「面白い話ができないので困る。教えて欲しい。」(田村)

「院長は骨折で年末年始病院当直。大和病院をよろしく。」(猪口)

「光市で 30 年間務め、この 1 月で無事引退。お世話になった。」(河内山正)

「意識不明の重体を経験。死は決して怖くない。だから生きねば。」(藤原)

「IT 化は仕方なく。すべてガイドラインとはどうか？」(平岡)

「乗馬と釣り。今年も医師会で釣りに行きたい。」(清水)

「新任の山本先生は脊椎、リュウマチ何でも。よろしく。」(桑田)

「当直で 40 代の心筋梗塞 2 人。禁煙、

「ダイエットにはげむ！」(谷川)
「根回し上手の私。来年は副会長を辞めるので、よろしく。」(河村)

皆さん、顔の見える病診連携を是非ともよろしく。光市が全国のモデルになるような地域医療体制を作りたい。という会長の強い決意表明で、会は無事終了した。本年もよろしくお願ひ致します。(敬称略)



11月休日診療所当番医報告

11月		内科系	外科系	
	2 (日)	18	10	28
3 (月)	24	26	50	
9 (日)	16	1	17	
16 (日)	9	12	21	
23 (日)	12	9	21	
24 (月)	13	15	28	
30 (日)	25	3	28	
計	117	76	193	

1月休日診療所当番医報告

1月		内科系	外科系	
	1 (木)	40	6	46
2 (金)	52	14	66	
3 (土)	39	25	64	
4 (日)	40	32	72	
11 (日)	39	11	50	
12 (月)	48	4	52	
18 (日)	50	1	51	
25 (日)	33	13	46	
計	341	106	447	

12月休日診療所当番医報告

12月		内科系	外科系	
	7 (日)	25	0	25
14 (日)	23	3	26	
21 (日)	38	6	44	
23 (火)	44	5	49	
28 (日)	33	4	37	
31 (水)	57	20	77	
計	220	38	258	

2月行事報告

光市医師会

- 4日 学術講演会
- 5日 幼稚園・保育園関係者と園医の集い
- 10日 理事会
- 24日 月例会

編集後記

光市室積、御手洗湾を見下ろす絶好の位置に、新しく帽子をかぶせてもらった石仏が湾を見下ろしておられました。昨今の、経済危機、医療崩壊などとはまるで無縁の世界です。優しさ、ゆとりを取り戻し明るい世の中を築きたいものです。

特別に御寄稿いただいた河郷先生（玖珂医師会）を始め、たくさんの御寄稿ありがとうございました。医師会員の

言葉を伝える医師会報を今年も作って行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

広報担当 平岡 博

発行所 光医師会
TEL(0833) 72-2234
発行日 平成21年 1月31日
発行者 松村壽太郎
編集者 広報担当
印刷所 光市光井一丁目15番20号
中村印刷株式会社